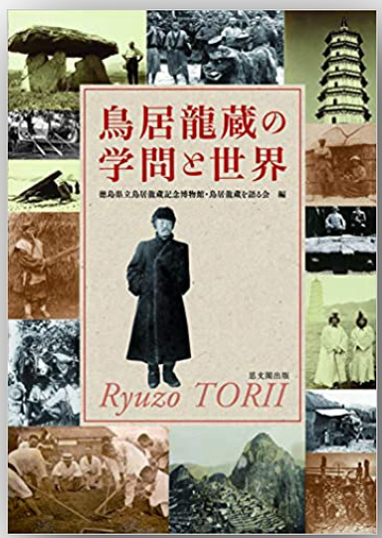
GUNMA PREFECTURAL LIBRARY
群馬県立図書館
新収蔵資料抄
Vol. 3
2021/06/18 発行
不定期刊



最寄り図書館に取り寄せ可

鳥居龍蔵の学問と世界

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館／編　鳥居龍蔵を語る会／編
思文閣出版　　2020.12 発行
定価 10,000 円＋税　8, 556p　22cm　289.1/TO67/ ネ 0Z
2021.3.12　受入

目　　次

Ⅰ 鳥居龍蔵を語る
Ⅱ 世界の中の鳥居龍蔵
Ⅲ 鳥居龍蔵、列島を歩く - 国内調査の軌跡 -
Ⅳ 検証・鳥居龍蔵 - 資料整理の最前線 -
Ⅴ 資料の窓

資料概要

鳥居龍蔵は、日本における人類学・考古学の黎明期を代表する研究者の一人とされる。研究の帰結点は日本人起源論であり、フィールドワークを踏まえたスケールの大きな研究を続け、その業績は大正期に広く受容されたが、今日の諸学史では必ずしも適切に位置づけられていないとする意見もある。

本書はこうした鳥居龍蔵の再評価につなげようとする企図を持って編まれたもので、鳥居龍蔵記念博物館（徳島市）と、民間研究団体である「鳥居龍蔵を語る会」の研究者、24 人が執筆を担った。

本書では「小学校を 2 年で退学し、独学して世界的な学者になった」（※）と紹介されることの多いこの偉大な人類学者の、生涯の詳細や人物像、日本国中のみならず朝鮮半島や中国、台湾、モンゴル、ペルーなど、地球規模の踏査成果を紹介するとともに、人類学と考古学における鳥居の足跡と評価を検証する。

※ 本書によれば、「小学校を 2 年で退学」は誤り。

鳥居龍蔵（とりい りゅうぞう、1870 - 1953 年）

鳥居龍蔵は 1870(明治 3)年に徳島の煙草問屋の二男として生まれた。独学で人類学を志し、16 才で東京人類学会に入会、東京帝国大学理科大学人類学教室に職を得て研究を続けながら、51 才で博士号を取得、東京帝国大学助教授、國學院大學教授、上智大学教授・文学部長などを歴任。1953(昭和 28)年、82 才で没した。勲三等瑞宝章受章。

フィールドワーク重視の実証主義的研究スタイルを貫き、世界を股にかけて日本人学者未踏の地を駆け巡った。当時の野外調査は大きな危険を伴うもので、出発にあたって龍蔵は「護身用としてピストルを腰に、写真機を 2 箇(シャタ附)携帯し…」と書き残している。(龍蔵は、学術野外調査に初めて写真機を携行した日本人学者でもある。)

なお、龍蔵は東京帝国大学理科大学助手だった 31 才のとき、東京音楽大学の学生だった 20 才のきみ子 (市原キミ) と結婚している。その結婚と 2 人のモンゴル行の経緯は、吉川英治が「明治に一葉あり昭和に時雨あり」と絶賛した女流文学者、長谷川時雨の小説「操子ときみ子」に詳しい。「操子ときみ子」は小説集『春帯記』(1935 年)に掲載。県立図書館所蔵の『長谷川時雨全集(2)』(02/918.6/H36/ｶ39-2)に収録されている。

裏面で県立図書館所蔵の鳥居龍蔵関連資料を紹介。

阿嚕科爾泌（アルコルチン）のこの辺はすでに東ゴビの沙漠地帯であって、（略）実に荒涼たる所であり、常に狼の如き野獣が出没し旅人を脅す…

鳥居龍蔵「蒙古旅行談」
『鳥居龍蔵全集』(12)

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料（図書資料・視聴覚資料）から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。
なお、本紙の内容は Web にも掲載しています。ご覧の際は右の QR コードをご利用ください。
また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。

群馬県立図書館　〒371-0017 前橋市日吉町一丁目９－１　電話：027-231-3008

群馬県立図書館所蔵の鳥居龍蔵関連著作

タイトル	責任表示	出版者	出版年	ページ数	資料コード
ある老学徒の手記	鳥居龍蔵／著	岩波書店	2013	507p	13237672
ある老学徒の手記	鳥居龍蔵／著	朝日新聞社	1953	261p	09053828
鳥居龍藏のみた日本	田畑久夫／著	古今書院	2007	11,342p	10474161
日本周囲民族の原始宗教	鳥居龍蔵／著	ゆまに書房	2003	308p	09945072
民族学者鳥居龍蔵	田畑久夫／著	古今書院	1997	263p	06358865
鳥居龍蔵伝	中薗英助／著	岩波書店	1995	442p	05572086
鳥居龍蔵のみた北方民族	北海道立北方民族博物館／編集	北海道立北方民族博物館	1994	65p	05313291
民族学の先覚者鳥居龍蔵の見たアジア	国立民族学博物館／編集	国立民族学博物館	1993	116p	05301494
鳥居龍藏全集第1～12巻	鳥居龍蔵／著	朝日新聞社	1976		
日本考古学選集6,7鳥居龍蔵集上、下	斎藤忠／[ほか]編集委員	築地書館	1974		
図説鳥居龍蔵伝		鳥居博士顕彰会	1965	149ｐ（おもに図版）	02550150
満蒙其他の思ひ出	鳥居龍蔵／著	岡倉書房	1936	327ｐ	01908920
人類学及人種学上より見たる北東亜細亜	鳥居龍蔵／著	岡書院	1925	501p図版16p	09296757
人類学上より見たる我が上代の文化1	鳥居龍蔵／著	叢文閣	1925、1929	382,5p	禁帯出

戦後考古学史での鳥居の評価は必ずしも高いと言えない面があるが、表面紹介の『鳥居龍蔵の学問と世界』、特に中村豊徳島大教授による「戦後考古学史における鳥居龍蔵の再評価」と、鳥居自身が執筆した『ある老学徒の手記』からは、評価の再考の必然が感じられる。

なお、辞職につながった帝大との確執の経緯は『ある老学徒の手記』に詳しい。

さうして、曠野を轉々して、地圖へ、歩いたあとの線を入れていくと、滿洲里近くから、チャハルの方まで伸びてゆくのだった。 有史以前の遺物や、古い文化を探り求めてさまよってゐると、天地の悠久なことが、ひしひし※と 堪らなくなるほど堪へた。

長谷川時雨「操子ときみ子」 ※ 原文は繰り返し記号